

令和6年度（令和5年度対象）

教育委員会の点検・評価

令和6年8月

洞爺湖町教育委員会

も く じ

I	はじめに	1～2
	1. 点検及び評価とは	
	2. 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価	
	(1) 評価の流れ	
	(2) 評価の対象	
	(3) 事務事業における評価者	
	(4) 評価シートの作成	
	(5) 達成度評価基準	
	(6) 行政評価委員による意見・提言	
	3. 教育行政評価の公表	
II	教育委員会の活動状況	3～5
	1. 教育委員会議の開催状況	
	2. 委員の活動状況	
III	事務事業評価及び評価委員の意見・提言	6～31
IV	資料 (別添)	
	1. 令和5年度教育行政執行方針	
	2. 令和5年度各種事務事業の実績等	

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（以下「改正法」という。）が、平成２０年４月１日から施行されました。この改正法では、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」が教育委員会に義務付けられています。

1 点検及び評価とは

教育行政の点検及び評価とは、洞爺湖町教育委員会が行っている行政活動（施策・事業）をどのような成果を上げたのかという観点から点検・評価し、その結果を改革・見直しに結びつけ、行政運営の質の向上を図るものです。また、住民にわかりやすく説明することによって、行政活動の透明性を高めるための経営手法でもあります。

（１）点検及び評価の目的

点検及び評価の目的は、

- ①政策や行政活動（施策・事業）の質を向上させること。
- ②行政の説明責任を果たすこと。
- ③教育行政に対する町民満足度を高めることです。

2 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価

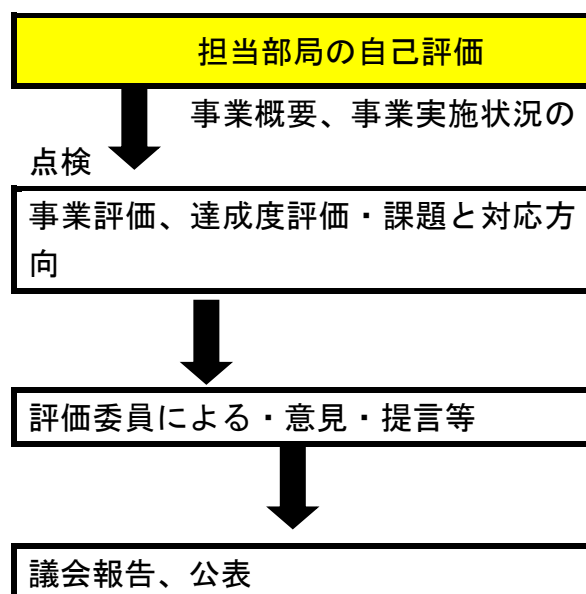
教育行政の点検及び評価をまとめて、「行政評価」とします。

（１）評価の流れ

教育委員会による自己評価に外部の視点から評価委員の意見を組み込むことにより、行政評価の客観性や改革・見直しの実効性を高めていきます。

各担当部局では、全事務事業を対象に、所定の評価シートを用いて「自己評価」を行います。

その後、評価委員が各事務事業に対する意見・提言等を示します。



(2) 評価の対象とする事務事業

前年度の「教育行政執行方針」に明記された事務事業の主なものを評価対象とします。なお、個々の事業をまとめた「主要施策」ごとに評価シートを作成し、評価事務の簡略化及び明確化を図ります。

※ 教育行政執行方針の括りを「推進項目」…大項目、「主要施策」…中項目、「事務事業」…小項目に分類します

(3) 事務事業における評価者

事務事業評価は、担当部局が評価者となり、評価シートは所管課が作成します。

(4) 評価シートの作成

- ①「主要施策」に括られた「事務事業」の概要を記載
- ②上記事務事業の実施状況を簡潔に記載
- ③事務事業ごとの決算額を記載（過去2ヵ年）
- ④担当部局の「評価」を事務事業ごとに簡潔に記載
- ⑤「達成度」について、下記の基準により評価し、簡潔な説明を記載
- ⑥「課題と対応方向」について、具体的に記載

(5) 達成度評価基準

評価対象事務事業について、事業の達成度について A～D の4段階で評価します。

評価	事業達成状況	
A	予定事業の実施状況について	概ね達成できた
B		一部に未実施があったが、達成度は比較的高い
C		未実施のものが多く、達成度が低い
D		ほとんど実施できなかった

(6) 行政評価委員による意見・提言

担当部局が作成した「主要施策」ごとの評価シートを行政評価委員に提示・説明し、施策・事業への意見・提言を求める。

3 教育行政評価の公表

行政評価委員の意見・提言等を記載した評価報告書を町議会に提出し、町ホームページ等で公表します。

＜報告書内容＞

- ①教育委員会活動報告
- ②事務事業評価シート
- ③教育行政執行方針（参考）

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会議開催状況

令和5年第2回臨時会 4月27日

番 号	案 件
報告第 9 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 10 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 11 号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会令和5年3月会議提出 一般会計補正予算(第10号))
議案第 22 号	洞爺湖町学校給食センター施設の統合について
議案第 23 号	洞爺湖町立学校における部活動方針の改定について
協議第 3 号	先進地視察研修について

令和5年第3回臨時会 5月17日

番 号	案 件
報告第 12 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
指名第 1 号	洞爺湖町教育委員会教育長職務代理者の指名について
議案第 24 号	教育委員会所管議案に対する意見について(洞爺湖町教育審議 会設置条例の制定)
議案第 25 号	洞爺湖町立学校運営協議会規則の一部改正について

令和5年第3回定例会 7月5日

番 号	案 件
報告第 13 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 14 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 15 号	臨時代理の報告について(洞爺湖町職員定数条例及び洞爺湖町 学校給食センター条例の一部改正)
報告第 16 号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会令和5年6月会議提出 一般会計補正予算(第2号))
議案第 26 号	洞爺湖町教育行政審議会条例施行規則の制定について
議案第 27 号	洞爺湖町教育行政審議会委員の任命方針の制定について
議案第 28 号	洞爺湖町独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金に 関する取扱要綱

令和5年第4回臨時会 8月18日

番 号	案 件
-----	-----

報告第 17 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 18 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 19 号	令和 4 年度洞爺湖町学校給食会計決算について
報告第 20 号	教育委員会所管の行政手続きにおける押印の廃止について
議案第 29 号	令和 6 年度から使用する小学校用教科用図書について
議案第 30 号	令和 5 年度（令和 4 年度対象）教育委員会の点検・評価について

令和 5 年第 5 回臨時会 9 月 28 日

番 号	案 件
報告第 21 号	臨時代理の報告について（洞爺湖町議会令和 5 年 9 月会議提出一般会計補正予算（第 3 号））
報告第 22 号	令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果概要について
報告第 23 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 24 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第 31 号	機構改革に伴う関係規則の整理に関する規則について
議案第 32 号	機構改革に伴う関係訓令の整理に関する訓令について
議案第 33 号	洞爺湖町教育委員会部局の人事異動について
議案第 34 号	洞爺湖町表彰条例に基づく被表彰者の内申について

令和 5 年第 4 回定例会 10 月 31 日

番 号	案 件
報告第 25 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第 35 号	洞爺湖町教育行政審議会への諮問について

令和 5 年第 1 回定例会 1 月 25 日

番 号	案 件
報告第 1 号	教育推進課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 2 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 3 号	令和 6 年度当初予算要望概要について
議案第 1 号	洞爺湖芸術館あり方検討委員会設置要綱の制定について
議案第 2 号	洞爺湖町立学校管理規則の一部を改正する規則の一部改正について
議案第 3 号	洞爺湖町就学援助費の支給に関する要綱の一部改正について
議案第 4 号	洞爺湖町教育委員会事務局職員の懲戒処分等について

令和5年第1回臨時会 2月9日

番 号	案 件
報告第 4 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第 5 号	令和6年度教育行政執行方針について
議案第 6 号	洞爺湖町立中学校制服等購入費助成金交付要綱の一部改正について

令和5年第2回定例会 3月21日

番 号	案 件
報告第 5 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 6 号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会令和6年3月会議提出一般会計補正予算(第6号))
報告第 7 号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会令和6年3月会議提出令和6年度一般会計予算(当初・教育費関係))
報告第 8 号	令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要について
議案第 7 号	洞爺湖町教育委員会部局の人事異動について
議案第 8 号	洞爺湖町立学校教職員の人事異動について
議案第 9 号	洞爺湖町部活動地域移行検討委員会設置要綱の制定について
議案第10号	教育指導参与の配置に伴う関係規則の整理に関する規則について
議案第11号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
議案第12号	洞爺湖町育英資金等教育振興基金条例施行規則の一部改正について
議案第13号	洞爺湖町教育委員会事務専決規程の一部改正について

2. 委員の活動について

- 6月26日～28日 小中一貫教育先進地視察(白糠町庶路学園・釧路教育大
付属釧路義務教育学校・中標津町計根別学園)
- 11月13日 学校訪問(洞爺湖温泉小学校・虻田小学校・とうや小
学校・洞爺中学校)
- 11月14日 学校訪問(虻田中学校・虻田高等学校)
- 2月13日～14日 令和5年度胆振管内教育委員会委員研修会
(洞爺湖温泉)

事務事業評価

及び評価委員の意見・提言

行政評価委員総括意見

令和５年度の教育行政執行方針に基づき、２４区分の主要施策に分けた主な事務事業について、各担当課による点検・評価の内容をもとに、第三者の立場から意見・提言を申し上げました。

令和５年５月、新型コロナウイルス感染症が５類に移行されたことに伴い、数多くの事業への取り組みが報告され、従来の事業展開が期待できるものと考えます。

このたびの評価を通して、特に次の３点について申し上げます。

１点目は、児童・生徒用に一人一台の端末（タブレット）を整備していることにより、ICTを最大限活用した教育の推進に積極的に取り組んで頂きたいと思います。町独自の事業について学力の向上に繋がる効果ある取り組みと思われることから、各課連携のもと仕組み作りに努めていただきたい。

２点目は、幅広い年齢層に対象とする事業については、洞爺湖町の魅力を伝えられる事業の取り組みを期待します。町民のニーズや期待に応じた事業の検証、見直しも必要であると考え、健全育成や地域の教育力向上に繋がる可能性がある高く評価する事業も多いことから、今後の取り組みについて十分な検証をお願いしたい。

３点目は、事業の成果・達成度・結果の「見える化」を図り、町内外に広く情報発信ができるよう、発信力の向上の工夫をしていただきたい。

以上、３点ほど申し上げましたが、更なる当町の教育行政の発展のための取り組みを期待します。

●洞爺湖町教育委員会行政評価委員

区 分	氏 名	摘 要
委員長	山本 隆	洞爺地区
委 員	高臣 陽太	洞爺湖温泉地区
委 員	大西 栄美	虻田地区

事務事業評価シート

		担当課	教育推進課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その1》				
取り組みの概要 (事務事業)	①コミュニティ・スクールの実施 ②小中連携の実施 ③スタンダード5研修委員会による町内小中学校の取組の推進 ④GIGAスクール構想の推進				
実施状況	①平成29年度より洞爺地区でコミュニティ・スクールを導入し、虻田地区においては平成30年度より導入しており、各校で対面会議をそれぞれ実施した。 ②虻田中学校区と洞爺中学校区で授業交流等の小中の交流・連携を進めた。 ・洞爺地区では、小・中相互に授業を見学し、その後交流を行った。また小学校から中学校に入学する子どもの情報引継が当該学年のみでなく、養護教諭、指導部長など、多くの教員が参加し、細やかに対応した。虻田地区では、虻田中が虻田小、温泉小の授業を参観し、虻田中教員が乗り入れ授業を行った。また、中学校へ進学する6年生の子どもたちについて、中学校進学に向けての家庭学習の課題プリントを出し、提出させた。 ③町内小中学校の学力向上に向け、各校の取組状況を交流するとともに、確かな学力を育むための町内学校で共通した授業の指導過程づくりに取り組み、その原案を作成した。また、各学校のスタンダード5研修委員による授業参観等を実施し、研修内容を各校の授業改善に生かしている。今後はクラスルーム等を活用し、各学校の取組みを共有し自校の取組みに還元する仕組みをつくる。 ④令和2年度に1人1台端末の整備以降は、文部科学省の補助事業を活用し、端末利用のルール・使用マニュアルの作成や授業のサポートなどを実施するGIGAスクールサポーターの配置、モバイルWi-Fiルーターの無償貸出を開始。5年度はICT教育を推進するために、ICT部会を立ち上げ、情報共有や課題整理等を行い、今後の取組みについて協議等を行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①コミュニティ・スクールの町内全校実施	301	288	0	0
	②小中連携の実施	0	0	0	0
	③スタンダード5研修委員会の開催	58	104	0	0
	④GIGAスクール構想の推進	23,473	14,045	0	0
評価	①町内各校に設置されているコミュニティ・スクール体制により、コロナ禍にあり合同会議は実施できなかったが、各校での対面会議を3回実施した。 ②小中連携においては、生徒指導の交流や小から中へと進む際に細やかな情報の引継など、日常的な交流・連携ができた。また、教務主任会を開催し、今後も町の特色をいかした教育実施に向けた取組みを推進する。 ③研修委員による会議を定期的に開催した。また、講演会の企画、運営を行うとともに、町の先生方によるワークショップを実施し、今後の学力向上に向けた取組を進めた。 ④ICT部会を立ち上げたことによる情報共有や、AIドリルのトライアルの実施など、ICTを活用した教育の推進を図る取組みができ、端末の持ち帰り学習が促進された。				
達成度	A	説明	概ね達成できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①②③特になし ④端末の更新やネットワーク環境等の整備		①通常会議を開催し、学校教育の推進を図る。 ②今後も積極的に取り組んでいく。 ③新たなスタンダード5により、今後も取り組んでいく。 ④補助金等を活用し、整備を実施していく。		
評価委員の意見・提言	児童・生徒用に一人一台端末を整備していることにより、ICTを最大限活用した教育の推進に積極的に取り組んで頂きたい。地域学習等各学校におけるよい教育活動を町外に発信する等、情報発信への工夫をお願いしたい。				

事務事業評価シート

	担当課	教育推進課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その2》				
取り組みの概要 (事務事業)	①教育指導専門員の配置 ②全国学力・学習状況調査 ③学習支援員の配置				
実施状況	①引き続き1名配置した。(平成27年度から配置) ②令和5年度全国学力・学習状況調査を、国からの依頼により、町内全小中学校を対象に実施し、町内の調査結果を分析した。 ③基礎学力向上を図るために、学習支援員3名を配置した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①教育指導専門員の配置	3,232	3,334	0	0
	②全国学力・学習状況調査	0	0	0	0
	③学習支援員の配置	7,974	8,055	0	0
評価	①教育指導専門員の配置により、教育委員会として各学校へ専門的な指導、アドバイスができた。 ②全国学力・学習状況調査の実施及び独自の学力調査の実施により、現状の傾向や課題を把握し・分析し、児童生徒個々の教科指導の充実に努めている。 ③町独自の学力向上対策のための支援員の配置により、授業の円滑化や学習姿勢、意欲の意識向上に努めた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし ②全国学力・学習状況調査の結果活用 ③学力の向上		①引き続き配置を継続する。 ②学力向上に向けた取組として、全国学力・学習状況調査における現状の傾向や課題の把握、分析をはじめ各学校の取り組みの充実を図るため継続して実施する。 ③引き続き、学習支援員の配置を行っていく。		
評価委員の意見・提言	児童生徒の学習意欲や集中力、学び方の質が高まる方策について分析・改善するなど、学力向上に向けて ICT を効果的に活用した家庭学習の推進に取り組んで頂きたい。				

事務事業評価シート

	担当課	教育推進課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その3》				
取り組みの概要 (事務事業)	①独自学力検査の実施 ②小中学生実用英語検定・漢字・算数・数学検定料助成				
実施状況	①町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」を実施した。 ②実用英語技能検定及び日本漢字能力検定料等について当該年度の1回分を助成した。 ＊受験者数 イ 実用英語技能検定 47名(受験率 31.1%) 前年度26名(受験率 18%) ロ 日本漢字能力検定 64名(受験率 15.7%) 前年度32名(受験率 22%) ハ 算数検定 8名(受験率 3%) ニ 数学検定 4名(受験率 2.6%)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(4年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①独自学力検査の実施	272	260	0	0
	②実用英語・漢字・算数検定料等の助成	164	370	0	0
評価	①町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」を実施により、児童生徒個々の教科指導が図られている。 ②漢検においては、前年度より受験率が減少となった。英検の受験率については前年度より増加したため、再度、助成制度の周知等を図るなど受験率の向上に向けた取組を進める。 ③R5年度より算数検定・数学検定の助成を実施				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 学力の向上 ② 受験者の増及び学力の向上		①町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」の実施など、引き続き支援していく。 ②今後も受験者の増を図るとともに、学習意欲の向上を図り、学力の向上につなげる取り組みとしては有効と思われることから、引き続き実施していく。		
評価委員の意見・提言	児童生徒の意欲がなければ受験率の改善には繋がらないと考えることから、成果設定(最低限の目標値)を定めるなど、受験率向上への取り組みについて工夫を凝らして頂きたい。				

事務事業評価シート

		担当課	教育推進課																																																																																																												
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進																																																																																																														
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その4》																																																																																																														
取り組みの概要 (事務事業)	①働き方改革の推進																																																																																																														
実施状況	①教職員の事務負担軽減を図るため、校務支援システム導入。 ②学校閉庁日に対する保護者への通知																																																																																																														
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)																																																																																																											
		4年度	5年度	国・道	その他																																																																																																										
	①働き方改革の推進	0	1,650	0	0																																																																																																										
評価	①学校や児童生徒に関する様々な情報をデジタル化し、教職員間で共有するシステムを導入したことで、教職員の事務負担の軽減、子どもの育ちを教職員全体で見守るきめ細やかな指導の充実に寄与できた。 ②働き方改革の推進に向けて取り組みを実施したことで、昨年度と比較しても時間外勤務を縮減することができた 【令和4年度:後期】 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">対象</th> <th colspan="4">時間外在校等時間(超過時間)別人数</th> <th rowspan="2">平均時間外 在校等時間</th> </tr> <tr> <th>45 時間未満</th> <th>45～80 時間未満</th> <th>80～100 時間未満</th> <th>100 時間～</th> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>小・中学校</td> <td>64 名</td> <td>7 名</td> <td>1 名</td> <td>0 名</td> <td>20.75 時間</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>小・中学校</td> <td>62 名</td> <td>9 名</td> <td>0 名</td> <td>1 名</td> <td>21.25 時間</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>小・中学校</td> <td>67 名</td> <td>4 名</td> <td>1 名</td> <td>0 名</td> <td>15.35 時間</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>小・中学校</td> <td>70 名</td> <td>2 名</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> <td>12 時間</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>小・中学校</td> <td>66 名</td> <td>5 名</td> <td>1 名</td> <td>0 名</td> <td>21.3 時間</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>小・中学校</td> <td>64 名</td> <td>6 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>23.7 時間</td> </tr> </table> 【令和5年度:後期】 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">対象</th> <th colspan="4">時間外在校等時間(超過時間)別人数</th> <th rowspan="2">平均時間外 在校等時間</th> </tr> <tr> <th>45 時間未満</th> <th>45～80 時間未満</th> <th>80～100 時間未満</th> <th>100 時間～</th> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>小・中学校</td> <td>68 名</td> <td>4 名</td> <td>1 名</td> <td>0 名</td> <td>22.65 時間</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>小・中学校</td> <td>64 名</td> <td>8 名</td> <td>1 名</td> <td>0 名</td> <td>20.05 時間</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>小・中学校</td> <td>70 名</td> <td>2 名</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> <td>16.15 時間</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>小・中学校</td> <td>68 名</td> <td>1 名</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> <td>11.6 時間</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>小・中学校</td> <td>66 名</td> <td>6 名</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> <td>18.1 時間</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>小・中学校</td> <td>62 名</td> <td>8 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>22.1 時間</td> </tr> </table>					区分	対象	時間外在校等時間(超過時間)別人数				平均時間外 在校等時間	45 時間未満	45～80 時間未満	80～100 時間未満	100 時間～	10月	小・中学校	64 名	7 名	1 名	0 名	20.75 時間	11月	小・中学校	62 名	9 名	0 名	1 名	21.25 時間	12月	小・中学校	67 名	4 名	1 名	0 名	15.35 時間	1月	小・中学校	70 名	2 名	0 名	0 名	12 時間	2月	小・中学校	66 名	5 名	1 名	0 名	21.3 時間	3月	小・中学校	64 名	6 名	1 名	1 名	23.7 時間	区分	対象	時間外在校等時間(超過時間)別人数				平均時間外 在校等時間	45 時間未満	45～80 時間未満	80～100 時間未満	100 時間～	10月	小・中学校	68 名	4 名	1 名	0 名	22.65 時間	11月	小・中学校	64 名	8 名	1 名	0 名	20.05 時間	12月	小・中学校	70 名	2 名	0 名	0 名	16.15 時間	1月	小・中学校	68 名	1 名	0 名	0 名	11.6 時間	2月	小・中学校	66 名	6 名	0 名	0 名	18.1 時間	3月	小・中学校	62 名	8 名	1 名	1 名	22.1 時間
	区分	対象	時間外在校等時間(超過時間)別人数					平均時間外 在校等時間																																																																																																							
			45 時間未満	45～80 時間未満	80～100 時間未満	100 時間～																																																																																																									
	10月	小・中学校	64 名	7 名	1 名	0 名	20.75 時間																																																																																																								
	11月	小・中学校	62 名	9 名	0 名	1 名	21.25 時間																																																																																																								
	12月	小・中学校	67 名	4 名	1 名	0 名	15.35 時間																																																																																																								
	1月	小・中学校	70 名	2 名	0 名	0 名	12 時間																																																																																																								
	2月	小・中学校	66 名	5 名	1 名	0 名	21.3 時間																																																																																																								
	3月	小・中学校	64 名	6 名	1 名	1 名	23.7 時間																																																																																																								
	区分	対象	時間外在校等時間(超過時間)別人数				平均時間外 在校等時間																																																																																																								
			45 時間未満	45～80 時間未満	80～100 時間未満	100 時間～																																																																																																									
	10月	小・中学校	68 名	4 名	1 名	0 名	22.65 時間																																																																																																								
	11月	小・中学校	64 名	8 名	1 名	0 名	20.05 時間																																																																																																								
	12月	小・中学校	70 名	2 名	0 名	0 名	16.15 時間																																																																																																								
	1月	小・中学校	68 名	1 名	0 名	0 名	11.6 時間																																																																																																								
2月	小・中学校	66 名	6 名	0 名	0 名	18.1 時間																																																																																																									
3月	小・中学校	62 名	8 名	1 名	1 名	22.1 時間																																																																																																									
達成度	A	説明	概ね達成できた。																																																																																																												
課題と対応方向	課題		対応方向																																																																																																												
	①教職員の時間外勤務の短縮		①働き方改革指針に基づき、児童生徒の多様な学びを止めることなく、教職員一人一人の意識改革とともに、時間外勤務縮減の取り組みを進める。																																																																																																												
評価委員の意見・提言	令和5年度から校務支援システムの導入により環境改善が見込まれる傾向にあることから、教職員の働き方改革を推進頂きたい。																																																																																																														

令和6年度(令和5年度実施)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

	担当課	教育推進課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	イ 特別支援教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①介護員・支援員の配置 ②指導計画・教育支援計画の充実				
実施状況	①特別支援教育支援員4名、特別支援学級介護員8名及び学習支援員3名を配置した。 ②特別な支援を要する児童生徒への個別の教育指導計画や個別の教育支援計画の策定を進めている。また、子どもたちの育ちと学びを支えるため、子ども・子育て支援ファイルを新生児訪問時に保護者に配布し活用を図るようにした。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①介護員・支援員の配置	33,665	34,449	0	0
	②指導計画・教育支援計画の充実 (支援ファイル「すくすく」作成費)	0	0	0	0
評価	①支援員及び介護員の配置により、特別な支援を要する児童生徒への柔軟な対応や、授業自体の円滑化を図ることができた。 ②個別の教育支援計画については、町内小中学校共通の様式を作成したことにより、町内で統一した発達や発育を総合的に捉えることができるが、活用を更に進めるようにする。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①介護員、支援員の確保 ②支援ファイルの活用促進		①授業を円滑に行うため、適正な配置を考慮しながら、継続して配置をする。 ②活用の充実を図るため、保護者・関係機関と連携・協議して進めていく。		
評価委員の意見・提言	特別な支援を要する児童生徒の学びの環境を確保するため、引き続き必要な対策を講じ、健康福祉課及び子育て支援課とデジタル化へ向けての連携を図り特別支援教育の充実に取り組んで頂きたい。				

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	教育推進課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ウ 特別教育等の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①環境教育、防災教育の推進 ②ALTの活用				
実施状況	①各学校とも自校の環境教育、防災教育の計画に基づき、校外での体験学習や火山マイスター等の講師を招いての防災学習を行った。1日防災学校は、毎年ローテーションに基づき実施し、成果は環境・防災教育実践集としてまとめられている。 令和5年度は洞爺中学校で虻田・洞爺両中学校の2年生合同で避難所開設体験学習を実施。火山マイスターによる講話や、ダンボールベット等の組み立て、避難所運営体験ゲーム(Do はぐ)を通じて、噴火や地震等自然災害に対する防災意識を高めた。 ②ALTを1名任用し、週1日ずつ各小中学校へ派遣している。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①環境教育、防災教育の推進(避難所開設体験学習会)	0	47	0	0
	②ALTの任用	3,979	4,229	0	0
評価	①各学校の実情にあわせた防災教育・環境教育が行われている。また、1日防災学校や避難所体験学習会を通じて、児童生徒の防災に対する意識付けが図られてきている。 ②各学校の英語担当教諭と協力し、児童生徒たちの理解度を考慮した授業内容や方法を提案し、英語や異文化への興味や理解を深めている。				
達成度	A	説明	概ね達成できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①1日防災学校の実施内容等の検討 ②特に無し		①防災意識向上のため今後も継続する。 ②特に無し		
評価委員の意見・提言	ふるさと教育の推進と自然災害時の初期行動や避難所運営の習得など、継続した取り組みを進めて頂きたい。				

事務事業評価シート

	担当課	教育推進課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	エ 児童生徒の健康及び安全の充実《取組その1》				
取り組みの概要 (事務事業)	①体力向上の推進 ②フツ化物洗口事業 ③いじめ、問題行動、不登校等への対応				
実施状況	①令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を実施した。 ②町内3小学校及び町内2中学校の全てでフツ化物洗口普及事業を実施した。 ③年2回の道教委のいじめに関するアンケート調査、学校独自のアンケート調査に加え、心理テスト(ハイパーQU)を実施した。また、必要に応じて、スクールカウンセラーの派遣を実施した。不登校児童生徒については、読書の家において、教育指導専門員が児童生徒の心のケアも含めて学習の支援を行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①体力向上の推進	0	0	0	0
	②フツ化物洗口事業の実施	267	253	0	0
	③いじめ、問題行動、不登校等への対応	356	457	0	0
評価	①令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を実施し、本町の傾向と課題を把握することができた。 ②保護者の理解を深め、関係機関と連携を図り、フツ化物洗口事業を円滑に実施できた。 ③アンケート調査や心理テストの結果を検証し、いじめに関する早期発見及び所要の対応を的確に実施することができた。また、必要に応じたスクールカウンセラーの派遣により、円滑な学校運営を図ることができた。不登校児童生徒については、教育指導専門員を配置し児童生徒の心のケアを含め学習の支援を行い、昨年度よりは減少している。				
達成度	A	説明	概ね達成できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①体力の向上 ②特になし ③心理テストの有効活用		①男女ともに全国平均を下回る種目が多いため、今後も体力向上のため、各学校の取組充実と併せ現状の取組を推進していく。②今後も継続して実施していく。③いじめ、問題行動、不登校等への対応として、スクールカウンセラーの派遣を今後も継続する。心理テストについては、原則年2回として実施し有効活用を図る。また、不登校児童生徒対策については、教師間及び保護者との連携を図り、必要な場合は福祉部局と連携も検討のうえ、迅速かつ生徒に寄り添った対応を図るよう努める。		
評価委員の意見・提言	児童生徒の健康と安全のため、体力向上に向けた対策を引き続き検討頂きたい。また、不登校の児童生徒については、各学校で行っている取り組み状況について引き続き保護者との連携を図りながら児童生徒に寄り添った対応を進めて頂きたい。				

事務事業評価シート

	担当課	教育推進課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	エ 児童生徒の健康及び安全の充実《取組その2》				
取り組みの概要 (事務事業)	①通学路の安全確保 ②各種安全教室等の開催 ③新型コロナウイルス感染症対策 ④熱中症対策				
実施状況	①通学路等交通安全推進会議を開催し通学路の危険箇所等の改善状況等の経過報告を行い、新たな危険箇所等の確認を行った。 ②地震や火災を想定した避難訓練、交通安全教室、薬物乱用防止教室などを実施した。 ③新型コロナウイルス感染症の5類移行後も継続した感染予防策を講じた。 ④熱中症対策として、各学校に冷風機を整備。各小中学校の保健室及び特別教室の一つにルームエアコンを設置した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①通学路の安全確保	0	0	0	0
	②各種安全教室の開催	0	0	0	0
	③新型コロナウイルス感染症対策	1,031	250	0	0
	④熱中症対策	85	4,146	0	3,300
評価	①通学路等の安全確保に向け通学路等の危険箇所等、今後の対策等について、共通理解を図ることができた。 ②自然災害等についての講話や実践を通じて、児童生徒の防災意識の向上が図られた。 ③アフターコロナにおける学校での感染拡大防止が図られた。 ④例年にない暑さのため、熱中症対策として急な対応が求められたが、迅速に対処することができた。				
達成度	A	説明	概ね達成できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①②③特になし ④各教室へのエアコン設置		①通学路等の安全確保に向け、合同点検等を実施し、安全対策の推進に努める。 ②今後も継続して実施する。 ③引き続き適切な感染予防対策を講じる。 ④引き続き適切な熱中症予防対策を講じ、エアコン設置に向けた実施設計及び工事を検討。		
評価委員の意見・提言	児童生徒の安全の確保のため、引き続き取り組んで頂きたい。				

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

			担当課	教育推進課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進					
主要施策	オ 高校教育の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	① 虻田高校への支援 ② 虻高未来づくりフォローアップ活動推進委員会との連携 ③ 洞爺地区等高校生通学費等助成事業					
実施状況	① 「虻田高等学校の未来づくりに関する提言書」に基づく支援事業を行った。 ② 虻高未来づくりフォローアップ活動推進委員会を2回開催し、現状等を検証した。 ③ 洞爺湖町より高等学校に通学する生徒の通学や下宿等に要する経費を負担する保護者に対し、助成を行った。					
事業費	事 務 事 業		決算額(千円)		特定財源(5年度)	
			4年度	5年度	国・道	その他
	① 虻田高校への支援		5,854	5,545	0	5,500
	② 虻高未来づくりフォローアップ推進委員会活動事業		40	72		
	③ 洞爺地区等高校生通学費等助成事業		2,464	6,481	6,300	0
評価	① 生徒募集活動等必要な支援を行うことができた。 ② 令和3年度以降、虻田中学校3年生の保護者へ支援内容や進路等の文書を配布してきた効果として、令和5年度は町内より7名が入学。 ③ 保護者への負担軽減を図る学習機会の確保をすることができた。					
達成度	A	説明	達成度は比較的高い			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	①入学者20名以上につながる支援策 ②提言書としてまとめた意見を次へつなげる活動の推進 ③特になし		①② 虻高未来づくり推進会議で虻高の魅力化の発信及び入学者増となるような支援策を協議するとともに、虻高未来づくりフォローアップ活動推進委員会のコミュニティスクールへの移行を検討。 ③ 全町を対象とした助成事業の継続。			
評価委員の意見・提言	入学者20名以上に繋げるためには、生徒が入学を望む新たな視点での取り組みを検討しながら、地域の高校としてのあり方について方向性の検討も必要であるとする。					

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

			担当課	教育推進課	
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	カ 学校施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	①学校施設の維持・管理の推進 ②教育施設の現状と今後の方向性への対応				
実施状況	①町内小中学校施設に係る工事及び修繕を実施。 主な工事 虻田小学校高圧機器更新工事(5,523 千円) 洞爺中学校高圧機器更新工事(44,810 千円) 主な修繕 小学校遊具修繕 (1,471 千円) ②洞爺湖町教育行政審議会にて町教育関連施設の維持管理について検討を開始。 ・町教育関係者を集めた審議会を開催(2回)し、教育施設の現地視察と今後のあり方について協議を実施。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①学校施設の維持・管理の推進	12,033	57,780	0	54,900
評価	①学校施設の維持・管理については、児童生徒の安全を優先し必要箇所の工事、修繕を行った。 ②教育施設について、町民の意向を伺うことができた。				
達成度	A	説明	概ね達成できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①老朽化した施設の改修とあり方		①学校施設の長寿命化計画等、老朽化対策を計画的に行っていく必要がある。 ②引き続き審議会にてあり方を示して行く。		
評価委員の意見・提言	これからの教育施設のあり方について、洞爺湖町教育行政審議会の答申を受け早期に方向性を示すよう努力をお願いする。				

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	教育推進課				
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進					
主要施策	キ 地域交流事業の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	①箱根町との中学生交流 ②洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル					
実施状況	① 箱根町との中学生交流事業については、新型コロナウイルス感染症により中止となっていたが、第5類に移行したことから、令和元年度以来4年ぶりに相互訪問を実施し交流を行った。 ② 虻田小学校において、各小学校の児童を集め、オペラシアターこんにやく座によるミュージカル観劇やワークショップを実施した。					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(5年度)	
			4年度	5年度	国・道	その他
	①箱根町との中学生交流		33	1,168	0	0
	②洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル		180	10	0	0
評価	① 相互訪問による交流事業を実施した。 ② 間近でみるミュージカルに児童たちは一喜一憂しながら、真剣に観劇していた。					
達成度	A	説明	概ね達成できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	① ②今後の実施方法の検討		①は、親善交流の重要な事業であり、令和6年度も相互訪問による交流を予定している。 ②は教育活動の一環として、内容を検討しながら、事業を継続していく。			
評価委員の意見・提言	文化芸術鑑賞など間近で見る機会を大切にする必要があると考えることから、両事業とも今後も継続して頂きたい。					

令和5年度(令和4年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	教育推進課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ク 進学支援の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①育英資金貸付及び給付事業 ②中学校入学時制服等助成事業の実施				
実施状況	①【入学時給付金】 7名 840千円 給付金額 高校・高等専門学校 8 万円、専修学校・大学 15 万円 令和5年度給付実績～高校3名、高等専門学校1名、専修学校・大学3名 【学資金】 4名 792千円 貸付基準額(月額:以下の金額以内) 高校 1.2 万円、高等専門学校 1.5 万円 専修学校・大学 2.1 万円 令和5年度貸付実績～高校0名、高等専門学校0名、専修学校・大学4名 【入学時一時金】 0名 0円 貸付基準額(以下の金額以内) 公立高校 20 万円、私立高校 30 万円、高等専門学校 30 万円、専修学校・大学 50 万円 令和4年度貸付実績～公立高校0名、私立高校0名、 高等専門学校 0 名、専修学校・大学0名 【育英資金基金状況】 R5年度末残高 104, 012, 525円 ②中学校進学者数 虻中 40 名 洞中 8 名 洞爺湖町立中学校へ入学する生徒の制服購入費助成を実施。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①育英資金の基金貸付及び給付事業	1,446	1,632	0	1,621
②中学校入学時制服等助成事業	0	2,947	0	2,900	
評価	①育英資金基金を活用して勉学意欲がある学生・保護者への経済的負担を軽減することができた。今後も積極的に活用してもらえるように周知方法等も検討しながら、事業を継続いく。 ②中学校へ入学する生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。				
達成度	A	説明	概ね達成できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①特になし ②保護者口座への振込に時間を要した	①学資金については、ふるさと納税の指定寄附により資金の確保はできている。さらなる周知に努め、有効な運営を図っていく。 ②次年度より販売店へ直接入金する方法を検討。			
評価委員の意見・提言	引き続き両制度の周知に努めて頂きたい。育英資金基金は、勉学意欲がありながら経済的理由等で就学が困難な学生を支援するため、継続する必要がある制度と考えることから、引き続き充実した事業を進めて頂きたい。				

事務事業評価シート

		担当課	学校給食センター			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進					
主要施策	ケ. 学校給食(施設等)の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	①給食センターの管理・運営					
	②食育活動の充実					
	③学校給食センターの統合時期の見送り等説明会					
実施状況	①ハサップに沿った衛生管理・運営を行い安心・安全な給食提供を行った。					
	②安心・安全で栄養バランスの取れた給食提供を行うと共に、栄養教諭による食育指導・衛生指導を行った。また、地場産品の野菜等の使用に努めた。					
	③学校給食センター統合時期の見送り及び虻田中学校の校舎移転に係る説明会を3回開催した。(内1回は6年4月)					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(5年度)	
			4年度	5年度	国・道	その他
	①給食センターの管理運営費		49,441	64,011	0	0
	②食育活動の充実		0	0	0	0
	③学校給食センター統合時期見送り等説明会		0	0	0	0
評価	① 給食提供数は1日約500食:年間総数97,023食を、調理後2時間以内に喫食出来る様、計画的に提供先6校(虻田高校含む)へ適切に配送を行った。給食費については、両センターともに納入率100%を達成出来た。(給食費納入額:虻田給食センター21,867,380円・洞爺給食センター 7,028,204円)					
	②栄養教諭による食育指導で食育の推進が図られた。また、地場産品の野菜等を積極的に使用した。食物アレルギー対応では、代替飲料3名の給食対応を行い給食事故のない提供ができた。 「学校給食の手引き」を作成し、食数等の報告や様式を統一し運用した					
	③説明の結果、現状の状況を理解してもらうことができた。					
達成度	A	説明	予定どおり事業が実施できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	①給食センターの管理・運営の検討		両施設ともに経年劣化が進んでいる事から、施設・機器の維持管理を図り、現施設の運営に努める。			
	②食育活動の充実		栄養教諭による食育指導の継続を図る。保護者へも地場産食材を積極的に使用している事を給食便り等で周知を行って行く。			
	③学校給食センターの統合		学校給食センター単体ではなく、教育施設全般の中で方向性を検討する。			
評価委員の意見・提言	安心安全な給食提供に向けた取り組みを引き続き進めて頂きたい。 地場産品の野菜等を積極的に取り入れるなど、関心の高い給食の提供がされていることから、アンケート調査の結果等を広く周知するよう努めて頂きたい。					

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ア 家庭教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①ブックスタート事業(生後7カ月の乳児健診時に絵本を贈呈) ②早寝早起き朝ごはん運動(家庭教育に関する情報の提供) ③子育てセミナーの活動支援(セミナーの開催により親同士の情報交換の場の提供)				
実施状況	①生後7ヶ月の乳児健診を利用し、本を通して親子のふれあいと心や言葉の発達を促し、子育てに対する意識を育てる事業(本の贈呈)を実施した。(参加延べ21名) ②小学校新入学児童説明会を利用して、保護者に対し生活・学習習慣についての出前講座を実施(虹小 10/23、温小 11/1、とうや小学校 10/18)、防災無線を利用した放送での啓発、小中学校への周知、ホームページへの掲載等実施。 ③5回実施した(参加者延べ49名)。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①ブックスタート事業	39	34	0	0
	②早寝早起き朝ごはん運動	0	0	0	0
	③子育てセミナー	0	0	0	0
評価	①絵本の贈呈をきっかけに読み聞かせの推奨や、読書の家で借りることができる本や施設の紹介などを行った。 ②保護者に対し、生活習慣や親子のふれあいの時間の大切さなどの情報発信を行い、家庭教育の推進が図れた。 ③町民カレッジ対象事業とし、参加促進の支援を図った。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①読書活動の定着		読書の家を活用するなど、継続的な読み聞かせの促進を図る		
	②具体的な事業の取組		LINE やチェックシートの活用など、さらなる周知・啓発		
	③家庭教育の推進		子育て支援課との連携を強化し、家庭教育の推進を図る		
評価委員の意見・提言	乳幼児の大切な時期であり、町民カレッジの運用などを工夫をしながら事業を積極的に推進していただきたい。				

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	イ 少年の学びの充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①とうや湖 GENKIDS 事業 ②三豊市との小学生交流事業 ③学校支援地域本部事業 ④学習支援事業「地域未来塾」の実施（公設の無料学習塾） ⑤少年の主張大会(主催:青少年健全育成連絡協議会)				
実施状況	①6 回開催(登録制なし、参加人数延べ 20 名) ②8/25～28(受入れ)、11/24～27(訪問) 洞爺湖町児童 9 名、三豊市児童 12 名 ③38 組の個人・団体が学校支援ボランティアに登録。学校支援ボランティア会議の開催(11/15)。 ④6月～2月の期間中、小中学生を対象に母と子の館(虻田地区)、洞爺総合センター(洞爺地区)主会場として、曜日を定めて実施した。(延べ 642 人) また、ウトウラノでは高校受験生を対処とした、東大生講師による ICT 遠隔教育事業を8月から2月まで実施した。(延べ 521 人) ⑤対面形式により実施した(4 年ぶりの実施)。				
事業費	事 務 事 業	決算額(千円)		特定財源(5 年度)	
		4 年度	5 年度	国・道	その他
	①洞爺湖 GENKIDS	0	0	0	0
	②三豊市との小学生交流事業	0	1,254	0	479
	③学校支援地域本部事業	6	8	5	0
	④地域未来塾	3,781	4,165	1,770	0
	⑤少年の主張大会	16	20	0	0
評 価	①6回開催したが、児童の参加者数が少なかった。 ②4年ぶりの開催で、参加児童は少なかったが、友好都市三豊市との交流が図れた。 ③小学校での読み聞かせや防災学習、地域未来塾での活動を行った。 ④地域未来塾の実施により、学習習慣を身に付け、基礎学力向上に向けた事業実施が図られた。 ⑤少年の健全育成の取組が図られた。また、対面形式により傍聴者の参加も可能となった。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		

課題と 対応方向	課 題	対 応 方 向
	①参加者の拡大	ニーズに応じた魅力ある事業を企画し、広く参加募集をかける。
	②参加者の拡大	友好都市とのつながりや交流の実施状況など、事業の周知に努める。
	③学校支援ボランティアの活用	登録ボランティアの活動を推進するため、今後も登録者との意見交換会を継続的に実施し、関係機関との連携を強化する。
	④指導体制の強化と対象学年の拡大	対象学年の拡大に向けて、ニーズの把握と体制整備に努める。
	⑤事業の周知	多くの町民が傍聴できるよう、広報などでできるだけ早い周知に努める。
評価委員の 意見・提言	参加者数が少ない事業もあるが、ニーズに応じた魅力ある事業を企画し、さらなる充実を図っていただきたい。未来塾については、引き続き事業の充実を図り推進していただきたい。	

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ウ 成人の学びの充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①二十歳のつどい実施 ②人づくり育成事業の実施				
実施状況	①対象年齢は20歳、59名(対象者86名)が参加した。 ②申請はなかった。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①二十歳のつどい	139	120	0	0
	②人づくり育成事業	246	0	0	0
評価	①予定通り実施した。 ②問い合わせは2件あったが、申請はなかった。				
達成度	B	説明	一部に未実施があったが、達成度は比較的高い		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし				
	②事業の周知		広報・ホームページ・SNSにより周知を行う。		
評価委員の意見・提言	二十歳のつどいについては、参加者の意見を取り入れるなど、事業内容に工夫を図り、参加者の満足度を高める取り組みを進めていただきたい。				

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	エ 男女共同参画事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①洞爺湖町男女共同参画計画の推進 ②講演会(きずな学級)の開催				
実施状況	①「洞爺湖町男女共同参画計画」を推進するため、各課より実施事業進捗管理シートを提出してもらい、洞爺湖町男女共同参画計画推進委員会にて意見をいただいた。 ②洞爺湖町男女共同参画講演会 2023(きずな学級講演会)の実施 令和5年12月20日(水)参加者40人				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	① 洞爺湖町男女共同参画計画の推進	13	48	0	0
	② 講演会(きずな学級講演会)の開催	49	50	0	0
評価	①実施事業進捗管理シートにより具体的に進捗情報を把握することができた。 ②働きやすい職場づくりやハラスメント等を改めて考えるきっかけができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①意識調査の実施		計画を推進する上で参考とするため、町民を対象としたアンケートを実施する。		
	②参加者の拡大		広報・ホームページ・SNSにより周知を行う。		
評価委員の意見・提言	事業自体の幅が広いので、講演会のテーマによって年齢層を絞るなど工夫を図り事業継続を図っていただきたい。				

令和6年度(令和5年度実施)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

	担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	ア 芸術文化活動の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① 各種発表会等の開催・支援 ② 美術見学の機会の提供				
実施状況	① 総合文化祭(虻田地区)、洞爺湖町民文化祭(洞爺地区)の実施 (洞爺湖町文化団体協議会) 展示部門 10/28～10/29 あぶた体育館 ステージ部門 10/15 洞爺湖文化センター (とうや文化協会) 展示部門 11/3～5 洞爺総合センター ステージ部門 11/23 ・ふれ合う心の文化広場 3/10 洞爺湖文化センター ※主催:洞爺湖町文化団体協議会 ・各種団体等との連携 町民ロビー展(開催回数 9回) ② 美術見学会は、美術館や博物館を巡り鑑賞の機会を提供 (10/30 北海道博物館・北海道開拓の村 21名)				
事業費	事 務 事 業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	①洞爺湖町文化団体協議会活動運営事業	300	300	0	0
	①とうや文化協会活動運営事業	100	100	0	0
	②美術見学会	463	175	0	0
評 価	① 虻田地区の総合文化祭及び洞爺地区の町民文化祭ともに、相互協力のもとに開催することができた。 町民ロビー展は、町内各団体や個人による作品発表の場となっている。 ② 美術見学会の実施に伴い、北海道の歴史文化を理解する機会を提供することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課 題		対 応 方 向		
	① 人材の発掘・活動の支援 ② 芸術文化の鑑賞機会の提供		発表の場の提供、個人・団体の活動支援。 町民のニーズに応えた見学会の提供。		
評価委員の意見・提言	引続き各団体への支援及び事業の継続を図って頂きたい。				

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

			担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興					
主要施策	イ 洞爺湖芸術館管理運営の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	① 洞爺湖芸術館における特別展及びワークショップ等の開催 ② 建物の維持管理、所蔵作品の管理					
実施状況	① 常設展:ピエンナーレコレクション展 3回 4～6月、6～9月、9～10月 特別展:石井千晶銅版画展「風の記憶」、tomoni art 展 10～11月 演奏会・ワークショップ:5回(コンサート3回、ワークショップ1回、朗読会1回) ② 所蔵作品保険加入、木彫作品の燻蒸					
事業費	事 務 事 業		決算額(千円)		特定財源(5年度)	
			4年度	5年度	国・道	その他
	① 特別展及びワークショップ等		1,003	1,157	0	0
	② 建物維持管理、所蔵作品の管理		13,442	6,343	0	477
評 価	① 特別展、ワークショップ等は友の会と連携しながら予定通り実施できた。 ② 所蔵作品の保険加入、木彫作品の燻蒸作業については予定通り実施し、維持管理を行った。					
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。			
課題と 対応方向	課 題		対 応 方 向			
	① 特別展等の充実 ② 建物・所蔵作品のあり方の検討		①美術学芸員の配置による企画展やワークショップ等の充実。 ②建物、作品の活用等、検討委員会を設置して芸術館の今後の方向性について意見を聴取する。			
評価委員の 意見・提言	ソフト事業については充実した内容となっており、取り組みを継続するとともに、引き続き所蔵作品の維持・管理、活用をお願いしたい。					

令和6年度(令和5年度実施)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

		担当課	社会教育課					
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興							
主要施策	ウ 入江・高砂貝塚保存整備・運営の充実							
取り組みの概要 (事務事業)	① 既存施設の改修等 ② 体験学習などの利活用 ③ 縄文ボランティアガイドの育成 ④ 縄文遺跡群の世界遺産保存活用の推進							
実施状況	① 既存施設の改修等 5,390 千円（入江貝塚竪穴建物復元施設改修） ② 縄文まつり、縄文体験（虻田・洞爺地区）、胆振縄文バスツアー体験事業 ③ ガイド育成事業（研修会、情報交換会への参加） ④ 世界遺産の普及活用（世界遺産2周年記念事業北海道博物館特別展への出品、デジタルスタンプラリー、講演会の開催等）							
事業費	事 務 事 業	決算額(千円)		特定財源(5 年度)				
		4 年度	5 年度	国・道	その他			
	① 既存施設の改修等	12,974	5,390	0	2,600			
	② 体験学習などの利活用	6,714	581	0	0			
	③ 縄文ボランティアガイドの育成	216	77	0	0			
	④ 縄文遺跡群の世界遺産保存活用の推進	637	409	0	0			
評 価	① 既存施設の改修については、予定通り実施できた。 ② 初めてとなる高砂貝塚での縄文まつりや体験学習など、充実した活動を実施することができた。 ③ 北海道との連携や町単独での育成講座に積極的に参加し、ガイドの質を高めることができた。 ④ 入江・高砂貝塚出土品を他の博物館へ貸し出すことで、価値を広く伝達することができた。講演会の開催により世界遺産の理解を深めることができた。							
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。					
課題と 対応方向	課 題		対 応 方 向					
	① 特になし		縄文への理解を深めるためのより充実したソフト事業の計画、実施。 来訪者への理解促進に向け、活動支援や学習会を行う。 周辺地域の開発等を把握し、保全に努める。					
	② 利活用について							
	③ ガイドの充実							
	④ 世界遺産の保全							
評価委員の 意見・提言	貴重な遺跡の価値を認識してもらうための取り組みを継続するとともに、ガイドの充実など、来訪者の理解促進に向けたさらなる取り組みを進めていただきたい。							

令和6年度(令和5年度実施)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	エ 町内文化財の保存活用				
取り組みの概要 (事務事業)	① 充実した施設の運用 ② 指定文化財の保存と活用				
実施状況	① 学校の授業において、郷土資料館の見学会を行った。 アイヌ語地名マップを活用した文化財ウォークラリーを実施した。 ② 洞爺湖町指定文化財である各獅子舞保存会への支援(月浦獅子舞、香川獅子舞。曙獅子舞はコロナウイルスの影響により活動休止)。文化財防火デーの実施。				
事業費	事 務 事 業	決算額(千円)		特定財源(5年度)	
		4年度	5年度	国・道	その他
	① 郷土資料館見学会等	0	0	0	0
	② 各獅子舞保存会補助金	100	100	0	0
評価	① 虻田郷土資料館、洞爺郷土資料室において、地域学習の場を提供することができた。 ② 町指定文化財の活動支援をすることができた(曙獅子舞については新型コロナの影響で活動休止)。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課 題		対 応 方 向		
	① 施設の利活用の促進		郷土の歴史の理解を深めるため、引き続き利活用の促進に努める。		
評価委員の意見・提言	② 指定文化財へのさらなる支援		今後も各保存会と連携し、指定文化財の保存と継承に努める。		
	引続き指定文化財の保存・承継の支援継続と郷土資料の適正な保存管理を図っていただきたい。				

令和6年度(令和5年度実施)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

		担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興					
主要施策	オ 読書活動の振興					
取り組みの概要 (事務事業)	① 読書環境・活動の充実 ② 読書感想画・読書紹介文募集事業					
実施状況	① あぶた読書の家、母と子の館での読み聞かせ(定期)を実施した。 北海道日本ハムファイターズとの連携により読書事業を実施した。 ② 読書感想画、読書紹介文募集事業(129 作品)					
事業費	事 務 事 業		決算額(千円)		特定財源(5 年度)	
			4 年度	5 年度	国・道	その他
	① 読み聞かせ		20	20	0	0
	① 読書の家維持管理事業		4,726	4,703	0	0
	② 読書感想画・紹介文募集事業		28	24	0	0
評 価	① 読み聞かせは、2団体により、延 26 回開催し、子どもが読書に親しみ、本を読むきっかけづくりができた。また、北海道日本ハムファイターズが主催する読書キャンペーンには、町内より36 名が参加し、16 名の達成者があった。 ② 読書感想画、読書紹介文募集事業を洞爺湖ロータリークラブとの共催で継続実施。継続した取り組みが図られた。					
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。			
課題と 対応方向	課 題		対 応 方 向			
	① 施設の利用促進		図書関連行事等の情報発信やサークルの支援に努める。			
	② 活動の充実		共催団体と連携し、学校などへの働きかけに努める。			
評価委員の 意見・提言	読書に親しむ機会の提供増を図るため図書関連行事の内容の検討及び工夫を図っていただきたい。					

令和6年度(令和5年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	V スポーツ活動の推進					
主要施策	体育振興事業の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	①アウトドアスポーツ ②スポーツ教室					
実施状況	①アウトドアスポーツ 「中島ウォーク！中島・湖の森博物館見学ツアー」(7名)、「財田スノーシュー散策ツアー」(4名) ②スポーツ教室 「夏休み水泳教室」(延 99 名)、「ヨガ&トレーニング教室」(延 77 名)、「スポーツ体験会(スポーツまつり)」(40 名)、「初心者スキー教室」(延 76 名)					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(5年度)	
			4年度	5年度	国・道	その他
	①アウトドアスポーツ		30	25	0	0
	②スポーツ教室		88	105	0	0
評価	①アウトドアスポーツ事業は 2 事業を実施したが、参加者が少なく、事業内容の見直しが必要。 ②スポーツ教室は、初心者スキー教室を除く 3 事業はコロナウイルスの影響で実施を見合わせていたが、令和 5 年度に再開することができた。いずれも参加者に好評だった。					
達成度	A	説明	概ね達成できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	①企画内容の検討		参加者のニーズに合わせた魅力ある事業の実施に努める。			
	②誰もが取り組めるスポーツの普及活動		誰もが取り組めるニュースポーツの普及に努める。			
評価委員の意見・提言	参加者が少ない事業については、内容の検討が必要であるが、町民のニーズに合わせてさらなる事業の展開に努めて頂きたい。					

令和6年度(令和5年度実施)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

	担当課		社会教育課	
推進項目	VI 社会教育施設及び社会体育施設の充実等			
主要施策	ア 社会教育施設及び社会体育施設の整備			
取り組みの概要 (事務事業)	①施設の維持管理 母と子の館屋根改修工事 (28,270 千円)、その他修繕等			
実施状況	①社会教育施設及び体育施設においては、必要な修繕を実施した。			
事業費	事 務 事 業	決算額(千円)		特定財源(5 年度)
		4 年度	5 年度	国・道 その他
	①社会教育施設維持管理事業	17,665	49,987	0 28,763
	①体育施設運営事業	12,829	13,045	0 850
評 価	①母と子の館アリーナの屋根を改修したことにより、懸案事項であった雨漏りが解消した。			
達成度	A	説明	予定どおり達成できた。	
課題と 対応方向	課 題		対 応 方 向	
	①各施設の老朽化		施設利用者の安全に努め、適正な維持管理を行う。	
評価委員の 意見・提言	施設の適正な維持管理を行い施設利用者の安全管理に努めていただきたい。			